



地。水が河道を溢流する場合、河道に近いところは流速が大きいので砂のようなやや粗流な物質を堆積し、河道から離れると流速が小さくなるのでシルトや粘土のような細粒物質を堆積する。河川水面から比高は約 5m以下の微高地にすぎないが、洪水の被害が少ないなどの理由から集落、畑、道路などに利用されてきた。越後平野の集落はほぼ自然堤防上に位置する。

### 砂丘の開削

蒲原平野の治水事業は数多くの放水路の開削によってできたものである。寺泊海岸から村上までの約 100Km 区間に 15 本もの人工放水路が開削され、さらに現在実施中のものが 4 本存在する（新発田川、福島潟、大通川、矢川隧道）。

蒲原平野があたかもお盆の底のように極めて低く、自然力によっては洪水の排水が極めて困難であったため、このお盆の底から海に向けて放水路を開削することが最適であった。

#### 新潟平野の主な放水路

名 称	通水年次	工 期	備 考
1. 松ヶ崎放水路	享保 15 年 (1730)	1730	現存していない  新島崎川 落水川           農水省 農水省
2. 落堀川	享保 18 年 (1733)	1732-1733	
3. 新川	文政 3 年 (1820)	1818-1820	
4. 郷本川	明治 6 年 (1872)	1872-1873	
5. 胎内川	明治 21 年 (1888)	1887-1888	
6. 東部組合悪水路	明治 36 年 (1903)	1899-1903	
7. 加治川	大正 3 年 (1914)	1908-1914	
8. 円上寺隧道	大正 9 年 (1920)	不明	
9. 落水悪水路	大正 9 年 (1920)	不明	
10. 大河津分水	大正 11 年 (1922)	1909-1922	
11. 新井郷川放水路	昭和 9 年 (1933)	1920-1933	
12. 樋曾山隧道	昭和 14 年 (1939)	1933-1939	
13. 新樋曾山隧道	昭和 43 年 (1963)	1961-1968	
14. 関屋分水	昭和 47 年 (1972)	1964-1972	
15. 新発田川放水路	工事施工中	1975-	
16. 福島潟放水路	工事施工中	1969-	
17. 矢川隧道	調査中	1990-	
18. 大通川放水路	調査中	1991-	
19. 国上隧道	平成 3 年 (1991)	1983-1991	

出典：新潟県の治水の歴史

### 地盤沈下

新潟平野の地盤沈下に伴う海岸沿いや内陸低地部のゼロメートル地帯の出現は、降雨時の常時浸水地域や堤防その他の施設も同時に下がるために、排水不能地域の発生をもたらした。昭和 39 年 6 月新潟地震の際に逆流した河川の水が湛水し「地震水害」とも呼ばれるような新たな災害を発生させた。

### VTR「芦沼」

春は、胸まで泥水につかりながら、苗の植え付け。秋は、おなじ泥田を全身でかき分けての稲刈り、蒲原平野の低湿地のコメ作りの農家の苦しみを生々伝える記録映画「芦沼」(あしぬま)である。沼地の多い蒲原平野が舞台で、度重なる洪水、虫害などに悩まされながら必死にコメを育てる農民の姿を追う